

高田援護室長の模型部屋(第16回)

皆さん、こんにちは。今年も大雪で大変な被害を受けた地域がありましたね。被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。かつて「この雪の下に高田あり」と言われしめぐらい豪雪地帯であった高田駐屯地周辺でしたが、今年もあまり降らず、地球の温暖化の影響かなと心配してしまいます。

ま、雪が降っても降らなくても、私はプラモを作っているわけで(笑)今年も正月明けから1/500の宇宙戦艦ヤマトを作り続けております。でもなかなか完成しない。デカイし、搭載される艦載機が多いし… そのため、本コーナーを更新できずにいました。すみません。

さて、今回は諸外国戦車の中から英国の・・

チーフテンMk. 5です。



チーフテンはイギリスの第2世代の主力戦車で、第2次大戦後、主力戦車であったセンチュリオンの後継戦車で、火力と装甲防御力を強化させた戦車です。イギリス本国では退役しましたが、中東諸国の一部ではまだ使用されているようです。

実はこの戦車というか、このキット、私が1/35スケールプラモデルを作った最初のキットなのです。私がまだ小学4年生で父がまだ現役自衛官だった頃、北海道機動演習に行った帰りに帯広かどこかのおもちゃ店で買ってきてくれたものです。土曜日に学校から帰り、(当時はまだ半ドン)午後と日曜の午前中を使って完成させました。

電池を入れて走らせると、部屋の中のどんな障害物も乗り越えていくチーフテンに「カッコイイ！」の一言でしたね。その後、戦車に色を塗り、デカールを貼り付けたりと、本格的に戦車を作るようになった思い出のキットです。私の原点とも言えるキットです。



紹介しているキットはその小学校の頃のキットではなく、3曹の27歳頃に当時を思い出しながら再度作ったもので、ストレート組です。特に手は加えていませんが、小学生の頃はエナメル塗料のパクトラタミヤ(1本100円)しか購入できず、しかも絵の具用の太筆で塗っていましたから、その頃に比べればかなり丁寧に作っています(笑)



車体はタミヤアクリルカラーのダークグリーンとブラックグリーンを使用しました。ダークグリーンの塗料を見たら残りわずかで、それを思いっきり薄め液で希釈してエアブラシで吹き付けました。すると、よく使い込んだ戦車の表面のように光沢が全くなり退色した感じになりました。偶然の産物ですね。



キットはリモコン仕様なのでサイドスカートの取り付け部が違ったりするのですが、その辺はこだわらずに作成しました。履帯は昔のキットなので塗料の食い付きが悪いポリ製です。よく見ると、ゴムバットの黒がはがれている(泣)イギリスの戦車はニックネームをつけてるんですね。この戦車「アル・カポネ」だそうです。



戦車兵も黒一色のユニフォーム。なんかかっこいいです。車内にクッションがあるから痛くないのか、ベレー帽で戦闘行動が出来るんですね。でも、ある本で読んだらチーフテンの乗り心地はかなり悪いそうです。「地獄の乗り心地」と乗員が述べていたそうですが・・・ 戦車兵の目がデカイ、怖い(笑)



ウェザリングはスミ入れの後、埃を乗せた程度にしました。長砲身の戦車は起伏に激しい地形では射撃や機動の際に制限を受けるんだらうな、砲身基部にかかる負担はでかいんだらうな・・・と自分が乗ったらと想定してみます。戦車乗員のモデラーなら誰でもやっていると思います。いや、私だけかも(笑)
砲塔を横に向けた戦車・・・毎度言っていますが、かっこいいんですね。つい、うっとりしちゃう。



砲身基部のキャンバスはパテで表現。そういえば、初めてパテを使ったのもこの戦車でこの部分でした。ある説明書にはパテを使わずにチューインガムを使用する例が載っていましたが、プラスチックにくっつかないのでホントかなと思ってしまいます。透明部品がない時代のキット。ライトもクロームシルバーで塗装のみ



今回はここまで。ところで、皆さんが最初に作ったプラモデルは何でしょうか？戦車？スポーツカー？それともガンダム？もし、今でも入手できるものであれば、それを作って当時の思い出に浸るのも悪くないですよ。

今回は完成度が低くてすみません。もっと泥やオイルやらが付着した戦車を紹介したかったのですが...

さて、家に帰って製作速度上げなきゃ。積みプラを減らさなきゃ。また自己満足の世界にお付き合いくださいね！